次世代型医療機器開発等促進事業
介護テクノロジー社会実装のためのエビデンス構築事業【海外展開】

公開用

AMED

課題名：海外展開を見据えた介護テクノロジーの実装効果と現地適応に関する研究開発

代表機関／代表者：株式会社善光総合研究所／宮本 隆史
分担機関：該当なし
研究期間：令和7年10月3日～令和8年3月31日

研究開発目的

- 当社のSCOPをはじめとする介護テクノロジーを、中国・台湾・シンガポール・マレーシアの介護現場に展開するにあたり、現地の制度・文化・運営実態との整合性や適応課題を明らかにし、段階的な実装プロセスとその効果を検証する。

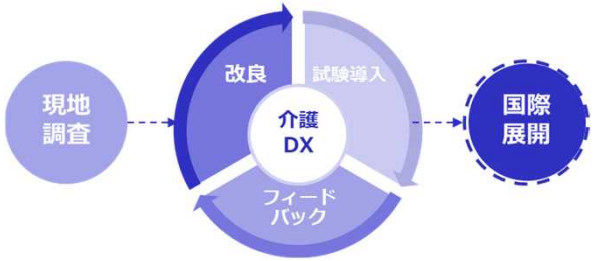
取り組み

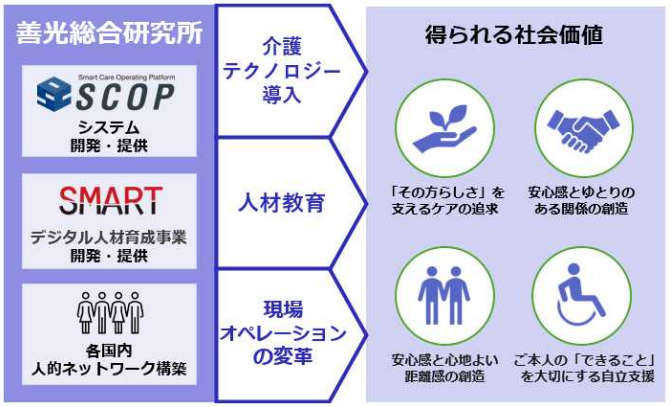
- 現場でICTを主体的に活用・定着させるため、「デジタル中核人材育成プログラム」を実施し、持続的な運用体制を構築する。
- 育成を通じて得られた知見をもとに、介護記録システム・見守りセンサー・移乗支援ロボット等の実践的活用を推進する。
- 生産性向上とケア品質改善の効果を定量的に評価し、介護現場全体の改善を図る。
- 各国の規制や実態に即した介護DXモデルを提示し、国際展開・経済効果を検証する。

期待される成果

- 当社の介護DXシステムをアジア各国に展開し、現地調査と実証を通じて制度・文化に適応した最適モデルを構築する。デジタル中核人材の育成により、自律的なICT運用と現場イノベーションを促進する。介護の質と効率を科学的に検証し、日本発介護DXの国際モデル創出を目指す。

介護DX基盤構築と国際展開に向けた取り組み



各国の状況に適合した介護テクノロジーとデジタル中核人材の育成を融合させ、介護業務の効率化・質向上を推進し、持続可能な介護社会インフラを構築し、日本発の介護DXモデルを国際展開する。

海外展開を見据えたテクノロジー×人×現場改革